

## 第5回 日本横断「川の道」フットレース520キロを振りかえって

No.35 長島 晃

2009年4月30日、スタート地点の葛西臨海公園駅の階段を降り始めたとき、左ひざに痛みを感じ不安がつる。4月の月間走は254キロでさほど多くはないが、市民ランナーとしては頑張ったほうである。痛みは1ヶ月前から少しずつあった。

受付のゼッケン交付でトラブル発生、私の永久欠番35番が無い。応急処置として54番（岡村絹江）さんのゼッケンで520キロを走ることとなる。左ひざの痛みといい、ゼッケンといい、なんだか不吉な予感のするスタート前だ。

9時にフル51名、ハーフ荒川～千曲川ステージ22名、全73名、晴天の下、荒川河口・太平洋をスタート。昨年よりも参加者が多いので気持ちが楽である。荒川を北上、快調に進む。左ひざの痛みは感じられない、不思議だ。ゼッケンも気にならない。

32キロ地点の笹目橋を渡り戸田彩湖畔 CP1でのエイド。おいなりさんがうまい、本当にうまい。作ってくださった方に感謝。そうめん、美味しかった。太田実副会長ありがとう。本当は副実行委員長なのだが、何故か私は勝手にそう呼んでいる。

元気が出たので、このまま北上。CP2 新上江橋東、CP3 桜堤公園、CP4 大芦橋南西を休みながら通過。熊谷警察を21時40分通過。この先から昨年とコースが異なりバイパスを通ることになる。コンビニ、深夜飲食店のネオンが深夜走行のわれわれには安心さを感じさせてくれるが、結局昼間の疲れと90キロの走り疲れで、バイパス入口から CP6 の玉淀駅まで17キロを歩くこととなる。

東武東上線玉淀駅着1日0時45分。駅長のメッセージ「フットレースの皆さんへ 電気を付けておきますので明るいところですが ゆっくりお休みください」のたて看板があり、あらためて我々のレースをいろんな人が応援してくれているのだと感謝。少し横になって眠る。

30分ほど仮眠を取り、駅を後にゆっくり歩き出す。深夜の秩父方面26キロを眠気と戦いながら歩き走る。今年も精米ボックスのお世話になり仮眠。寝心地はイマイチ。

CP7 秩父上野交差点通過5月1日6時41分。今年も秩父鉄道武州日野駅前の豆腐屋さんで、そば豆腐、豆乳をご馳走になる。朝の疲れた体にしみわたる美味しさ。体が生き返る。美味しい豆腐ありがとう。元気をもらい、ここから走る。秩父の新緑が美しい。大滝村温泉を通過。右甲府方面に向かい、大ループ橋手前でビール。のどを潤おし、ほてった体にビールが効く。一気にループを越え、新緑と深緑の中津川へと突入。このコースも最高の景観溪谷コースである。主催者の舘山誠さんに感謝。

CP9「こまどり荘」到着5月1日14時30分。お風呂、仮眠、気持ちよい深い眠りに付く。

1日18時三国峠（1、828メートル）に向けて出発。坂井敏さんと雨宮由典さんとで峠を目指す。3人での深夜山登りは一人の単独走と違い、かなり精神的に楽であった。幻覚に惑わされることも無く、野生動物の出会いも気にせず、ライトの明るさも3人分で道もはっきりわかる。大助かり。

峠頂上22時47分、風が冷たい。気温2度、寒い。ここから長野県千曲川の源流を下っていく。

深夜の南牧村をひた走る。深夜2時ごろ小海線信濃川上駅に到着、仮眠休憩。気温4度。すでに一人仮眠のランナーあり。駅の座布団を体中に巻いて防寒仮眠、すばらしい眠りにについている。うらやましい。30分休んで坂井さんと出発、とても寒い。

CP11 南牧村 T 字路手前で左に朝焼けの雪をいただく八ヶ岳連峰が見えてくる。すばらしい日本の景色。美しい八ヶ岳連峰にありがとう。

ここまで深夜の眠気を払いながら歩くことが出来たのも坂井敏さんに頂いたすぐれもの、眠気覚ましのカフェクール 200 (医薬品)。これが利いたお陰です。坂井敏さんありがとうございます。

夜が明けてひたすら佐久、小諸を目指し走る。渡邊武さん (流山 CJ) には CP12 長土呂東交差点手前 6 キロ地点で合流。ここから「小諸グランドキャッスルホテル」までの道のりをサポート、一緒に走りきる。

5 月 2 日 1 3 時 CP13 到着。渡邊武さんお疲れ様でした。ハーフ 2 6 5 キロの渡邊さんはここで終了です。後でホテルのレストランで信州そばの大盛りくるみ味で完走を祝い、おいしく頂く。

足が痛い、かなり痛い。両足の親指の爪の元のあたりが大きく腫れ上がり、真っ赤に充血し、じんじんしている。このまま残りの 2 5 5 キロを走ることを諦めて、いっそ東京行きのバスで帰ろうか。副会長の太田実さんに小声で相談したところ、どちらの足が痛いんですかと訊かれ、畳の上で見せたところ、優しく少しきつめに私の痛い足を太田実さんは踏むんです。「アイタタター」。太田さんいわく「大丈夫です。最後まで行きましょう。長島さんがここで止めたら大会がつまらなくなります。一緒に最後まで行きましょう」。この一言で信濃川河口を再度目指すことと成るわけです。

5 月 2 日 1 8 時、小諸グランドキャッスルホテルを出発 (千曲川～信濃川後半ハーフステージ参加者は 3 1 名で次の日の 1 1 時スタートとなる)。ここから完全なる一人旅となる。新潟県津南町「深雪会館」までの 1 3 0 キロ、ほかのランナーに誰ひとり会うことが無く言葉を交わすことがなかった。

今年は猥褻エロチラシを拾うことも無く、途中長野善光寺の 7 年ぶりのご開帳に立会い、本殿奥の院に鎮座益します金の仏像を拝み、飯山線の鉄道マニア鉄チャン軍団の冷たい歓迎に会い、途中中野市大字上今井の「もみじ荘」で見晴らしのいいすばらしい温泉に入り、そば御膳を味わい、飯山の菜の花祭で黄色い菜の花ロードを満喫し、県境の宝山荘を右に見て満天の星の下、CP19 の津南「深雪会館」にたどり着く。

5 月 4 日 0 時 2 0 分。遠かった、さびしかった。お風呂に入り、ビールを飲んで、少しお話をして眠りに付く。(お話の内容は、ボランティアの郷 亜紀子さんが、たまねぎのスライスは血行に良く血液がサラサラになるし、おいしいからいっぱい食べてくださいとのこと。もう 3 9 4 キロも走ったので、ずいぶんサラサラなんですけど) 楽しい会話でぐっすりと眠ることが出来た。郷 亜紀子さんありがとう。

6 時出発。この時点で先頭の藤原ナース定子さんはすでに最終目的地にゴールしていると聞く。恐ろしき出来事。雁坂の女王が川の道の女王に変身、すばらしい。おめでとうございます。

小千谷魚沼橋南詰手前の食堂でチャーハン大盛りを注文。昨年も食べましたが、ここの大盛りが半端じゃないほどの山盛り。8 0 0 円、うまい。胃がはちきれんばかりの量。苦しい美味しさ。食堂のおじさん、大盛りチャーハンありがとう。

小千谷といえば和田さんの私設エイド、いつも手厚いもてなし本当にありがとうございます。ビールをいただき、1 時間ほど横になり眠らせていただきました。元気 1 0 0 倍、長岡まで気持ちよく走ることが出来ました。

CP 2 2 長岡大手通交差点 5 月 4 日 1 8 時 4 5 分。そのまま国道沿いを走り健康ランド・ポエムに立ち寄り温泉仮眠休憩。

5 日 3 時 1 5 分出発。ここから 2 時間 3 0 分ほとんど走る。快調に進む。体が思うように動く。不思議なぐらい進む。

残り 2 8 キロ、白根市茨曾根の進行方向左の変なドライブインのようなレストランで朝食をとる

こととなるが、なんだか変なお店に入ってしまったのである。まだ朝の6時前というのに6人ぐらいの田舎のおじさん達が酒盛りをしていて、一人25歳位の連れの女性がつまらなそうに、何も語らず傍らで新聞を広げ読んでいるのか、空気のようになんだかわからない。奥では4人の大柄な青年が大声でゲームに興じていて、その傍らで75過ぎの爺さんも一人もくもくとバトルゲームに向かい暇をつぶしている。話しかけてきた店のマスターらしき43歳位の薄めのサングラスの兄貴風体は崩れた髪形リーゼントヘアを整えもせず、しかし人のよさそうな一度は東京に出てきたもののあまりうまくいかず何故かこの地に今は落ち着いている男と、卵とじカツ丼を作ってくれた元水商売をしていた感じで厚化粧がくずれ、酒やけの声が店内に響き、笑い声も独特な夜のお仕事を長くされていたと見受けられる60歳くらいのおばさん。おせじにも美味しいとはいえない卵とじカツ丼。肉を奥歯で噛み切りながらのどに通した。まるで映画監督デビット・リンチの映画のワンシーン「ロストハイウェイ」を思い出す、そんな光景に出くわした。悪夢か。お腹にたまった卵とじカツ丼ありがとう。さあラスト28キロ気持ちを取り直して走るぞ。

外に出てみると体が動かない。右足と左足がばらばらでうまく動かない。大きく体を振ってゆっくりゆっくり動き出し15分ほど歩いていたら何とか動けるようになる。途中、中村磨美さんに追いつかれ、少し話しながら進むこととなる(大いなる気分転換)。

CP24を過ぎ、日本海が近い。歌を歌いながら信濃川の土手を走るが涙があふれてくる。2度、3度と涙の波が押し寄せてくる。うれしさがこみ上げてくる。

5月5日10時45分、CP25信濃川河口・日本海到着。日本海に向かって「今年も来たぞー、東京から着たぞー」。もう一度日本海に向かって大声で叫ぶ「待っていてくれてありがとうー」。記念写真をスタッフにとってもらい、一路ゴールのホンマ健康ランドに向かう。

5月5日11時29分、2年連続のフル520キロゴールとなる。多くのスタッフの出迎えを受け元気よくゴールとなる。皆さんありがとうございます、長島 晃はしあわせな男です。

## 追記

帰りの新幹線では泥のような眠りに襲われ、自分がいったいどこに向かって帰っているのかわからない状態でした。車窓からの景色が夢なのか幻覚なのか、とろとろととろけるような肉体と精神、味わったことの無い時間。何とか東京駅に着く。

中央線、小田急線と乗りついで家に帰る自信が無く、どうしたら良いかと。そんな時、坂井敏さんに教えていただいたカフェクール200を思い出し東京駅で服用。これが効いて何とか家にたどり着きました。坂井敏さん本当にありがとうございます。

楽しい、苦しい、思い出に残る6日間ありがとうございます。私の心に深く気持ちよくきざみこみ込まれました。

永久欠番 ゼッケンNo. 35 長島 晃 122時間29分59秒 完走

(平成21年5月11日)